

36 「灯り」の大切さ

台風 15 号の爪痕は、本校に限らず様々な地域の方に及んでいます。被害にあわれた皆様には心からお見舞い申し上げます。

さて、私事で恐縮ですが、我が家は 9 月 9 日(月)午前 1 時ごろに停電となり、電気のつかないまま出勤、その後帰宅したのは午後 7 時ごろ。その時点でもまだ停電は継続しており、電気が通らないことで、くみ上げ式のトイレも使用できなくなっていました。家に入ると、ほぼ暗闇。その中でろうそくの「灯り」が小さくともっていました。暗いというだけで、人間不思議なもので、少し不安になりましたが、暗闇の中で小さくともったろうそくの「灯り」で、少しだけ気分が落ち着きました。午後 11 時ごろに電気が復旧して、日常が戻ってきたのですが、その時はスイッチ一つで電気がつく、テレビがつく、パソコンがつく…という生活にすっかり慣れてしまっていたと、今後何かあったらどうしようという不安がよぎりました。

台風が通り過ぎたある朝、登校中に低学年の子が転んだらしく、泣いていたところ、登校班の上級生が肩を貸してあげながら「大丈夫」と優しく声をかけてあげていました。また別の班では、「昨日休みだったけど、もう大丈夫？」という声が聞こえていました。声をかけられた子は「うん」と笑顔で答えていました。泣いていた 1 年生にとって、前日休んだ子にとって、こうした声はひよっとしたら一つの「灯り」なのではないかと、ふと思いました。

安全・安心で豊かに学べる学校とは、こうした小さくとも誰かが誰かを照らす「灯り」がたくさん集まってくる学校なのだと考えます。今後もこの「灯り」を釜利谷小学校でもっともっと増やしていきたいです。